

④ 日本国特許庁(JP)

① 特許出願公表

② 公表特許公報(A)

平5-503953

⑥ Int. Cl.⁵ 識別記号 庁内整理番号 審査請求 未請求
 C 08 L 79/09 L Q Z 9285-4 J 子審査請求 有 部門(区分) 3 (3)
 B 41 M 5/26 8305-2 H B 41 M 5/26 Y 派
 (全 12 頁)

④ 発明の名称 スルフォン化ポリアニリン組成物、製造法および使用法

⑥ 特 願 平2-515960

⑥ 出 願 平2(1990)10月23日

⑥ 翻訳文提出日 平4(1992)4月23日

⑥ 国 際 出 願 PCT/US90/08118

⑥ 国際公開番号 WO91/06887

⑥ 国際公開日 平3(1991)5月16日

優先権主張 ⑥ 1989年10月24日(米国(U S)) ④ 426,959

⑥ 発 明 者 エプスタイン、アーサー、ジェイ アメリカ合衆国43209 オハイオ州ベークスリー、マークル ロー
ド 53⑥ 出 願 人 ジ オハイオ ステート ユニ アメリカ合衆国43212 オハイオ州、コロンブス、キニア ロード
バーシティ リサーチ ファウ 1314
ンダーション

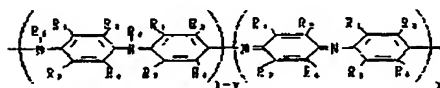
⑥ 代 理 人 弁理士 浅 村 皓 外 3 名

⑥ 指 定 国 AT(広域特許), AU, BE(広域特許), CA, CH(広域特許), DE(広域特許), DK(広域特許), ES(広域
特許), FR(広域特許), GB(広域特許), GR(広域特許), IT(広域特許), JP, KR, LU(広域特許), NL
L(広域特許), SE(広域特許)

最終頁に続く

図 表 の 説 明

1. ス 1



(0 ≤ x ≤ 1)であり、R₁, R₂, R₃, R₄, R₅,
 としてR₁は、H, -SO₃H, -R₁SO₃H, -SO₃M,
 -R₁SO₃M, -OC₆H₅, -C₆H₅, -C₆H₄, -F, -Cl, -Br,
 -I, -N(R₁), -NHCOR₁, -OR₁, -O⁻, -SR₁,
 -CR₁, -OCOR₁, -NR₁, -COOR₁, -COR₁,
 -CSO₃及び-COからなる群より、独立して選ばれるもの
 であり、R₂はC, -C, アルキル、アリール、又はア
 ルキル基であり、Mは正のカチオンであり、xは
 -SO₃⁻基を有するフェニル、又はキノイド環の割合で
 あり、zはMの正のカチオンを有するこれらのフェニル
 又はキノイド環の割合であり、zがxよりはるかに少な
 い場合、組成物は導電体であり、そしてzがxに近づく
 と、組成物は不導電体になる)の化学組成を有するスル
 フオン化ポリアニリン組成物。

2. 少なくとも一種の-SO₃M、又は-R₁SO₃MであるR₁,
 R₂, R₃, 又はR₄、基を含む環の割合がほぼ20パー

セントから100パーセントに変化する請求項1に記載
 の組成物。

3. スルフォン化ポリアニリン組成物の分子量が約
 900(スルフォン化ポリアニリンのオリゴマー)から
 100,000以上までの範囲にある請求項1に記載の組
 成物。

4. R₁は-SO₃H、及び、-R₁SO₃Hからなる群より選
 ばれたものであり、そしてR₂, =R₃, =R₄, =Hであり
 してx=0.5である請求項1に記載の組成物。

5. MはLi⁺, Na⁺, K⁺, Rb⁺, Cs⁺, NH₄⁺,
 Ca²⁺, Ba²⁺ よりなる群より選ばれたものである請求
 項1に記載の組成物。

6. x=1である請求項1に記載の組成物。

7. 自己ドーブされたスルフォン化ポリアニリンオ
 リマーを塩基水溶液と反応させることを特徴とするクレ
 ーム1のポリアニリン組成物を製造する方法。

8. 反応がほぼ定速において行なわれるクレーム7
 に従う方法。

9. 反応が真空中で行なわれるクレーム7に従う方法。

10. ポリアニリンオリマーはあらかじめ定められた結
 晶を有しており、反応中にその長さが減少しないクレ
 ーム7に従う方法。

11. 自己プロトン化されたスルフォン化組成物を作
 る際に、中間物質として使用する式1に示すスルフォ
 ン化ポリアニリンの組成物。